

戦争体験談(疎開体験)

すぎもとみ え こ
杉本美恵子さん

私は戦争についての記憶は殆んどありません。ただ思い出すのは、昭和19年戦争も激しくなって当時5歳の私を含む家族5人で両親の故郷に疎開することになり、東京の上野駅から石川県の金沢駅まで前の晩から父と兄が交替で並んで席をとり、満員列車に乗ることができました。車内はすごい人でトイレにも行けません。その列車もB-29が爆音と共にやってくると運行をやめ、やり過ごすのです。その間に、窓から男も女も外に出てトイレをするのです。やっとの思いで金沢に着きました。しかし、その金沢も危ないとのことで知人を頼って、津幡町の山奥に移り住みました。父は勤めがあるので、東京へ戻って行きました。山での生活は約3年。母は大変苦労したでしょう。でも、幼い私にとっては楽しい思い出です。冬は、村のお年寄りが竹をまげてスキーを作ってくれ、春はきいちご、秋には栗や柿をほおぼり、村人の薪拾いを手伝い、夕飯を食べさせてもらったりしたものです。

兄も勉強するより、工場へ動員される毎日でした。そして、終戦。出征した教師がなかなか戻ってこないため、先生が足りないため、1年繰り上げて卒業した兄が代用教員になりました。自分と同じくらいの年の生徒ですからやりにくかったでしょう。その兄も昭和22年春に大学で学ぶため東京へ戻り、私たちも続いて上京しました。当時の国民は、皆辛い思いをしてきました。

毎日のように世界のどこかで戦いのニュースが流れています。

もう二度と戦争のない平和な世界でありますよう切に祈ります。